

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0793100124		
法人名	株式会社エコ		
事業所名	グループホームきずな 1階		
所在地	福島県田村郡小野町矢津作高山3-5		
自己評価作成日	令和元年12月26日	評価結果市町村受理日	令和2年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和2年2月27日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年9月に開所し、少しずつ地域の皆様に認知されてきている所です。同敷地内の関連事業所と合同の避難訓練や行事を開催しながら、地域の皆様や消防団の方々と交流を図っています。今後も小野町役場、社会福祉協議会、地域包括支援センターの方々に協力を得ながら、入居者様の笑顔を大切に介護を提供して参ります。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 事業所開所月から運営推進会議を定期的に開催し、事業所の利用状況や課題等を報告したり、事業所行事への参加要請や、非常災害時の協力要請を行い、メンバーの方々から多くの意見や提言をもらい、事業の運営に活かしている。  
 2. 管理者は、日頃から職員に声掛けしたり、職員会議や個別面談を定期的に行い、意見や要望を積極的に聞き入れ、職員が働きやすい環境作りに努めている。  
 3. 職員は、理念を念頭に置きながら、利用者が日々笑顔で楽しく暮らせるよう、声掛けしながら支援しており、利用者の表情も明るい。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	小野町のスローガンでもある、「笑顔とがんばりの町」の文言を生かしたホーム理念を掲げ、職員一同が念頭に置いて、業務に当たっている。	事業所開所時、職員間で話し合い、小野町のスローガン「笑顔とがんばりの町」を組み込み基本理念を策定し、朝の引継ぎ時に全員で唱和して、共有を図っている。理念はスタッフルーム及び廊下に掲示している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議委員の方達より、地区の皆様にも事業所の行事参加への呼びかけをお願いしている。	開所間もないため、地域行事の情報収集や事業所行事の参加協力を委員に働きかけている。芋煮会に地域の方々を招いたり、散歩や買い物時の挨拶、歌やフラダンス等のボランティアを通して地域との交流が増えてきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に、訪問介護サービス、定期巡回等の施設があり、情報を共有しながら、グループホームへの理解をすすめている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	同敷地内の特別養護老人ホームとの合同の運営推進会議を開催し、介護施設や認知症に対する理解を深めて頂いている。	事業所開所月から運営推進会議は、同敷地内の地域密着型特別養護老人ホームと、合同で定期的開催している。会議では、運営状況や利用者状況、行事内容や事故・ヒヤリハット報告、防災協力要請や社会資源の確認、事業所内の課題等を報告している。メンバーの方々から建設的な意見が多くあり、運営に反映するよう取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的に町の健康福祉課の担当の方と連絡を取り、入居状況の報告等を行っている。	町の担当課とは、定期的に事業所の運営状況や利用者状況を報告したり、町内の各事業所の情報交換をしている。また、運営推進会議に参加してもらい、地域との交流の大切さや事業所見学の実施、地域消防団との連携等の意見や提言を頂き協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は施錠せず、入居者様の行動を制限しないよう、尊厳を保持する言葉掛けにも配慮している。	身体拘束廃止に関する指針を作成し、委員会を定期的開催している。月毎に、ヒヤリハット等の原因究明と対応策を講じている。また、法人主催の研修会に参加したり、対応マニュアルを徹底させ、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。日中玄関の施錠は行わず、言葉掛けによる見守りで対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修を受講し、事業所にて伝達を行っている。職員同士がお互いに気軽に注意し合える関係を築いている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な時に利用できるよう、社内研修等にて理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、時間をかけて丁寧に説明し、各項目ごとに理解して頂けたか確認をとっている。解約の際にも、不明な点等がないよう確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様やご家族からの意見や要望を聞き取るように心掛け、早急に対応している。	利用者と家族に運営推進会議に参加してもらい意見を求めたり、日常生活の中での会話や面会時、電話での生活状況報告の中で、意見や要望を聞いている。出された意見・要望を運営に反映するよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人にて定期的に管理者面談を実施し、事業所の現状を把握している。管理者は年2回職員の面談を実施し、各職員の状態を把握している。	ブロック長は管理者を、管理者は職員と定期的に個別面談を実施し、意見や要望を聞くようにしている。毎月開催しているスタッフ会議や毎朝のミーティングの中でも意見等を聞いている。また、管理者は、日頃から職員に声掛けをしながら、意見や要望の把握に努め、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の資格取得状況、能力、職務態度等を精査し、処遇に反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に参加できるよう、調整を図っている。法人では、資格取得の支援を行い、職員のスキルアップにつなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターが主催する講習会等に参加し、他事業所との情報共有を図っている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居して間もない時期は、他入居者様や職員と良好な関係を築けるよう、コミュニケーションを多くとっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談や見学時より、ご家族の思いを傾聴している。また、入居後も遠慮なく意見を言って頂けるよう配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族が理解できるよう、サービスについて説明し、必要に応じて町の担当者や地域包括支援センターの協力を得ている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の意思を尊重しながら、できることを行って頂き、できないところをさりげなく手伝うサービスを提供している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	些細なことでも、ご家族に報告し、情報の共有を図っている。何かあれば、事業所で判断せず、ご家族の意見を伺うようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで暮らしてきた地域との絆が途切れないよう、ご家族や知人の方々の面会時には、ゆっくりと過ごして頂けるよう配慮している。	床屋や外食、買い物や自宅訪問等、家族の協力も得ながら、これまで築いてきた関係が継続できるよう支援している。また、敷地内の特養との合同行事等でも交流ができています。家族や兄弟等の面会時には、居室で歓談したり、食堂で他の利用者と一緒にお茶を飲みながら、楽しく過ごせるよう配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事やレクリエーションを通し、入居者様同士が関わり合うことができる場を多くつくっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方はいないが、ご本人やご家族の意見を伺い、今後の方向性について把握している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の思いは、日々の暮らしの中から聞き取っている。ご本人の思いを尊重し、一つ一つ意思を確認しながらサービスを提供している。	利用者との日頃の会話やおやつ時間、散歩や入浴支援の中で、声掛けしながら思いや意向の把握に努めている。困難な場合には、入居時に家族から得た情報を参考にしたり、表情等から本人の意向を汲み取り、カンファレンスを行って、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らし方が維持できるよう、ご本人やご家族と相談しながら、生活環境づくりを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活スタイルや心身状態を確認しながら、ご本人の思いに寄り添ったサービスを心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人とご家族の意向を伺い、毎月のケース会議にて、各職員の意見を聞きながら、チームにて介護計画を作成している。	入居時、利用者の状態に合わせて、当初1カ月その後3カ月毎に利用者や家族の意向、担当職員の意見やモニタリングの結果等を基に介護計画を作成している。利用者の状態に変化があった場合は、その都度話し合い介護計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活の様子を個別的に記録し、気づきや状態の変化等があれば、業務日誌にて申し送りし、情報の共有を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状態やご家族の状況の変化に応じて、柔軟なサービスが提供できるよう体制を整えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町の社会福祉協議会や地域包括支援センターと連携を図り、町のボランティアの方々に来て頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今まで受診されていた病院へ、ご家族の協力を得ながら通院されている。	本人、家族の希望に応じて、かかりつけ医の受診を支援している。受診時は、事前に直近の生活及び身体状況を医師に情報伝達し、受診後、職員間で情報を共有し、適切な医療が受けられるよう支援している。また、家族へも受診結果についての情報を提供している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携の看護師が週1回訪問し、健康管理を行っている。必要に応じて適切な医療が受けられるよう、情報共有を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	これまで入退院はないが、その際には、入居者様やご家族が安心して入退院ができるよう、医療関係者と良好な関係を作るようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期に関する意向を書面にて確認している。重度化した場合は、再度書面にて確認するようにしている。	入居契約時に本人と家族に対し、重度化した場合や終末期におけるケア対応の指針を説明し、利用者の意向を踏まえ、安心して終末期を迎えられるように、随時意思の確認をしながら取り組んでいる。また、法人主催の「看取りケアについて」の研修を通じて、看取り介護に関する共通認識を高めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを配置し、いつでも使用できるよう定期的に講習を受けている。急変時や事故発生時に迅速に対応できるよう研修も受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	町の消防署や地域の消防団の協力を得て、総合訓練を行っている。地域住民の方々にも声を掛け、協力体制を築いている。	消防署立ち会いのもと、年2回(2回目は4月実施予定)の総合防災訓練をはじめ、毎月、昼夜の火災や地震を想定した自主訓練を実施している。また、災害時に備え、地元の消防団等との協力体制を構築している。非常時用の飲料水や食料等を備蓄している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の尊厳を大切にし、日常的な言葉遣いに注意している。また、各居室にトイレがあり、プライバシーが確保されている。	法人主催の接遇やプライバシー保護に関する研修を通じて、職員の接遇スキルの向上を図り、利用者一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーに配慮した支援に努めている。また、スピーチロックがあった際は、職員相互に注意を促している。個人情報取扱いについては、鍵付き書庫で保管し管理を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、意思決定できる場面をつくり、思いを気軽に言える雰囲気をつくっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活スタイルを大切にし、自分のペースで過ごして頂けるよう、意思を尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に理容師が訪問し、散髪している。好きな服を着て頂き、衣類や髪も汚れや乱れがないよう、注意を払っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	普段はカロリー計算され、塩分控えめなチルド食を提供している。行事食等は手作りし、季節を感じて頂いている。	通常はチルド食品の配食サービスを利用しているが、利用者の誕生会や季節行事の際は、利用者の意向を確認しながら献立を作成し、利用者に配膳を手伝ってもらい、一緒に食卓を囲みながら、会話を交えて食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量を個別に記録し、不足している方には、好みの物を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全介助や声掛けの支援にて口腔ケアを行い、口腔内の清潔を保っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自宅でリハビリパンツのみ着用していた方が、尿とりパットを使用することにより、自分で簡単に交換ができるようになり、清潔を保てるようになった。	利用者一人ひとりの排泄状況をケース記録で確認しながら排泄パターンを把握し、トイレ誘導している。また、尿意が感じられない利用者へも時間を見計らってトイレで排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員間で排泄パターンを把握し、牛乳や乳製品の提供や軽い運動等をして頂くことで、便秘を予防している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間を決めず、希望に応じて入浴されている。入浴したくない方に対しては、職員を交代して対応している。	入浴は、利用者の希望と体調を見計らいながら、週2回以上入浴できるよう支援している。また、みかんの皮や柚子等を使用し、利用者との会話を通して入浴を楽しんでもらえるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寒がりの方には、以前から使用していた電気毛布を持参して頂いている。温度や湿度に配慮し、安眠できるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬状況は個別に記録しており、薬の作用、副作用を把握している。薬の変更時は申し送りを行い、誤薬の防止も図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	動画を活用し、昔の歌や動物、子供の映像等、好きなものを鑑賞し、楽しんでいる。自宅で毎日決まった飲み物を飲まれていた方は、入所後も継続されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族との通院の際に、ドライブを兼ねて、近所をまわってきて頂いている。	事業所の敷地内の散歩等を通じて、日常的な外出支援に努めている。また、家族の協力を得ながら、買い物やドライブ等の機会も作っている。今後の予定として、利用者全員と一緒に外出する行事計画を検討している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金銭管理は事業所にて行っている。職員と共に買い物と一緒にいき、見守りにて買い物をされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の了解を得て、希望がある際には、電話の取り次ぎを行っている。手紙のやり取りも支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	定期的に換気を行い、温湿度、臭い等、不快を招かないよう配慮している。また、共有空間には季節の飾りつけ等を行い、居心地良く過ごせるよう配慮している。	日々の清掃や温度管理を適切に行っている。また、季節を感じさせる飾り付けを利用者と一緒に行う等、利用者が居心地よく過ごせるような空間づくりを工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士が仲が良く、場所をゆずり合いながら、好きな場所で思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	入所当初は個室が寂しいという声も聞かれていたが、以前から使用していた物品を持ち込んで頂き、安心して過ごされるようになった。	居室には、記念写真、家具等、馴染みの物の他、利用者の希望により冷蔵庫やテレビ等を持ち込んでもらい、その人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。日々居室の掃除を行い、気持ちよく過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの身体状況に応じて、居室の手摺りを設置し、安全に移動できるように対応している。廊下や共有空間も広く、車椅子でも安全に移動できている。		